



アトリエきよみ(ししゅうギャラリー)

筆と絵具で描いたように、繊細で美しい色彩のグラデーションが表現された「横振り刺繍」による刺繍絵画。専用のミシンにセットした針と糸だけで描く、その高い技術を継承する数少ない一人が「アトリエきよみ」代表の大澤紀代美さんだ。

横振り刺繍は大正末期、桐生から生まれたとされる技術。その起源は諸説あるが、桐生の技術者が当時のミシンを横振り用に改良したとされ、手で枠を動かし、足でミシンを駆動させ、膝で振り幅を決めて縫い込んでいく。元々桐生では冠婚用の打掛や振袖の装飾として刺繍技術が磨かれたため、大柄でダイナミックな図柄を得意とし、第二次世界大戦後のスカジャンで一世を風靡した。

1940年、桐生の買い継商の家に生まれた大澤さんは、元々は画家志望であったが、知人の紹介で初めて出会ったのが横振り刺繍。刺繍自体が着物の装飾としか捉えられていなかった時代、「針」を筆に「糸」を絵具として、そこに芸術性を見出した。1975年には横振り刺繍業界では初めて個展を開催し、刺繍という技術をアートとして確立したパイオニアとなった。その後、感性和技術がファッション業界にも認められ、数々のデザイナーと協働を果たしつつ、活躍の場を国内外に広がっていく。

本町五丁目に構える「ししゅうギャラリー」では、自身の作品を展示しながら、後進の育成にもあたる。現在、大澤さんの下で学ぶのは、東京をはじめ大阪や沖縄まで全国から集まる10人あまり。皆、大澤さんの技術に魅了され、直接弟子入りを志願したという。また、理事相談役を務める桐生刺繍商工業協働組合では、「みんな息子や孫のよう」という組合員の良き相談役として業界の精神的な柱でもある。

ものづくりを通じて活躍する一方、テレビなどのメディアにも積極的に出演する大澤さん。自分が露出することで少しでも桐生のPRになれば、と地域の広報役も買って出る。数々の偉業をなし、ファッション業界とも強いつながりを持つ大澤さんであるが、「刺繍の道に終わりはない。刺繍が本当に好き」と謙虚に話す。刺繍、桐生、業界、弟子たち、それぞれに優しく時に厳しい愛を注ぐ、「刺繍界のゴッドマザー」の存在は大きい。

【ししゅうギャラリー】

- 場所／桐生市本町5-57 MARUKINビル2F ● 電話／0277-46-1253
- 定休日／水曜日 ● HP／<https://atelier-kiyomi.jp/>

「針」を筆に「糸」を絵具に
感性で描く横振り刺繍の大家